

第3学年3組 音楽科学習指導案

授業者 教諭 篠原 靖子
スクールボランティア 佐久間 恵

1 題材名 ふしのとくちょうを生かして歌おう

2 題材の目標 旋律の特徴や変化を感じ取って、歌い方を工夫する。

3 題材でひもとく音楽の要素や仕組み 【旋律、変化】

4 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材は、旋律の特徴や変化を感じ取り、表現を工夫していく力を高めることをねらいとしている。ここでは、旋律が醸し出す雰囲気、児童が「軽く弾む感じ」とか「穏やかで滑らかな感じ」というような自分なりの言葉を使って表現し、児童自らそれらをどう工夫していくか、児童の表現力が引き出せるような授業を展開していきたいと考えている。

(2) 児童の実態（男子19名 女子13名 計32名）

3年生らしく、明るく活発な児童が多い。音楽が流れてくると歌詞を口ずさんだり、自然に体を動かしたりする児童がたくさん見られる。

事前のアンケートでは、以下のような結果になった。 (7月調査)

・歌うことは好きですか。					
はい	30人	いいえ	2人		
・歌うときに気を付けていることは何ですか。(複数回答)					
リズム	10人	強弱	7人	速さ	5人
音程	4人	きれいな声	2人	口の開け方	4人
		歌詞に合うような歌い方	1人		

この結果から、本学級の94%の児童が歌うことが好きであり、多くの児童が日頃から「リズム」「強弱」「速さ」などに気を付けて歌っていることが分かる。

「歌詞に合うような歌い方を心がけている」という児童も見られるので、楽譜や歌詞を手がかりに、どのように工夫し、歌っていけば自分たちの目指す歌い方ができるのかを考えさせたい。そして、今後さらに自信をもって、自分たちのイメージに合った歌い方を工夫しながら、歌っていけるようにしていきたい。

(3) 指導観

本題材で、旋律の特徴をいかに自分たちで表現するかを考えさせたいと思っている。ここでは、スクールボランティア(SV)の「バードウォッチング」範奏や範唱を聴くことで、旋律がどこで変化したのか、なぜ変化したとを感じるのかを話し合いながら、どのように歌えばいいのかを深く考えさせていきたい。頻繁なシンコーションのリズム、跳躍音程が際立っている音の動き、リズムカルで躍動感にあふれた曲想といったことに、リズム譜や音の高低を表した図形楽譜などから気付かせたい。さらに、それぞれ大きな特徴をもった異なる旋律を重ねたらどうなるか、対位的な響きの面白さなども味わわせたいと考えている。

これから出合う歌をどう歌っていけばいいのか、自ら考え工夫し、いろいろな歌を歌ってみたいと思えるようなきっかけとなる体験となるようにしたい。

5 教材について

- ・「馬にのって」 (ブルクミュラー 作曲)

馬に乗って軽やかに歩くような主要部と、風の流れと一体となって駆けているような中間部から成る、旋律の変化やその特徴の違いが分かりやすい曲である。

- ・「バード ウォッチング」 (土肥 武 作詞 石桁 冬樹 作曲)

シンコペーションのリズムや休符が効果的に用いられ、リズムカルな前半と順次進行を中心とした伸びやかな後半とが対照的になっており、前半と後半を歌い合わせ、旋律の重なりを楽しむことができる構成になっている。旋律の感じの違いに気付き、歌い方を工夫したり、旋律の重なりのおもしろさを感じ取りながら歌ったりするのに適した曲である。

6 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
歌唱	○	○	○
器楽			
創作			
鑑賞		○	
評価規準	旋律の特徴や変化に関心をもって、表現しようとしている。	旋律の特徴の違いや変化を感じ取って、歌い方や身体表現を工夫している。	旋律の特徴を生かして歌っている。
学習活動の評価規準	①旋律の特徴や変化に関心をもち、進んで歌唱表現や身体表現をしようとしている。	①旋律の特徴の違いを感じ取っている。 ②旋律の変化や特徴を感じ取りながら歌っている。 ③旋律の特徴を生かして、歌い方を工夫している。	①友達の声も聴きながら、旋律の特徴を生かした歌い方で、表情豊かに歌っている。

7 学習と評価の計画 (5時間扱い)

次	ねらい	主な学習活動	具体的評価規準
第1次 (2)	○楽曲の特徴をつかんで、想像豊かに聴いたり身体表現をしたりする。	「馬にのって」 ○旋律の変化やそれぞれのフレーズの特徴を感じ取って、歌ったり身体表現をしたりする。 ○それぞれの旋律の感じに合った身体表現を工夫する。	アー① イー①

第2次 (3) 本時は 第2時	○旋律の特徴をとらえて、歌い方を工夫する。	「バード ウォッチング」 ○旋律の変化やそれぞれの特徴を感じ取りながら歌う。 ○旋律の特徴を生かして、歌い方を工夫する。 ○歌い方を工夫し、情景を思い浮かべながら歌う。	イー② イー③ ウー①
--------------------------	-----------------------	---	-------------------

8 本時の学習（第2次 第2時）

(1) 本時の学習について

前半と後半のそれぞれの旋律の特徴が表せるような歌い方の工夫をすることで、旋律の感じの違いを生かして表現することの楽しさに気付かせたい

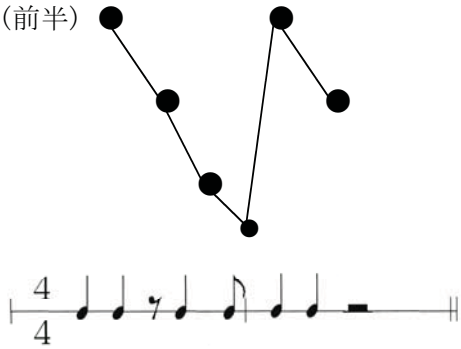
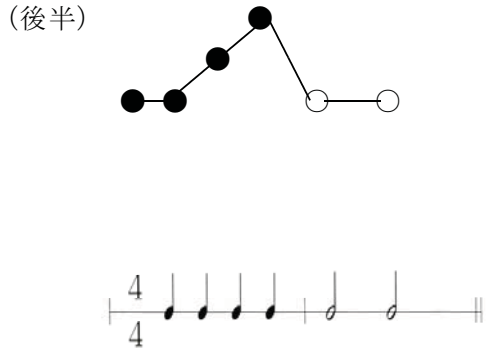
(2) ねらい

旋律の特徴を感じ取って、歌い方を工夫しながら歌えるようにする。

(3) 準備・資料

「バード ウォッチング」の楽譜、リズム譜、オルガン、音楽ポケット、音の高低を表した図形楽譜

(4) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆学習活動における具体的評価規準）
1 「馬にのって」を聴きながら、身体表現をする。 2 本時のめあてを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 曲のとくちょうに合わせた歌い方を工夫しよう。 </div> 3 前半と後半の旋律がどのように違うかを話し合う。	○楽しく学習する雰囲気をつくれるよう、身体表現をしながら聴き、どのような旋律の特徴があったかを確認する。 ○SVに「バード ウォッチング」を演奏してもらい、旋律の特徴を生かした歌い方を工夫していくことを知らせる。 ○SVによる範奏や範唱を聴いて、曲の感じがとらえられるようにする。
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>(前半)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>(後半)</p>  </div> </div>	

<p>(1) リズム打ちをする。 (2) ラララで歌う。 (3) 歌詞を読む。</p>	<p>○旋律をリズム打ちすることで、前半と後半の違いを考えることができるようにする。 ○視覚的にとらえることができるように、音の高低の動きがわかるような図形楽譜を掲示する。</p>
<p>4 グループに分かれて、自分たちの選んだ旋律に合った歌い方を工夫する。</p>	<p>○自分たちで気を付けて歌うことなどを楽譜に書き込みながら、歌い方の工夫をするように声をかける。</p>
<p>5 歌い方を教え合う。 (1) 工夫した歌の発表 (2) 歌い方の説明や注意 (3) 感想の発表</p>	<p>○楽譜や歌詞のどういうところを、どのように考えて、表現したのかを詳しく説明するよう助言する。 ○工夫したところを一緒に歌い、前半部分も後半部分もみんなと同じように歌えるようにする。 ◆旋律の特徴を生かして、歌い方を工夫している。(イー③：演奏の聴取)</p>
<p>6 本時のまとめをする。 ・前半部分と後半部分を重ねてみんなで歌う。</p>	<p>○前半後半を重ねるとうまく響き合う曲であることを知らせ、お互いの歌を聴き合いながら歌うよう助言する。 ○何人かの児童に授業の感想を聞き、次時の学習への意欲を喚起する。</p>

9 観点別評価の生かし方

【音楽的な感受や表現の工夫】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断する事例
<p>イー③ 旋律の特徴を生かして、歌い方を工夫している。</p>	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話合いや歌っている様子を観察することからとらえる。 <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなふうに歌いたいイメージを聞き、一緒にリズムを取ったり歌ったりする。 <p>【Aと判断する事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> □楽曲の感じや特徴が表現できるよう、積極的に自分の考えを述べている。